

令和3年3月17日

特別展「京^{みやこ}の国宝—守り伝える日本のたから—」の開催

文化庁、京都国立博物館、独立行政法人日本芸術文化振興会、及び読売新聞社は、京都国立博物館において、「日本博」の主要事業の一つとして、京都ゆかりの国宝と京都に関係の深い皇室の名宝等を一堂に展示する特別展を開催しますので、お知らせいたします。

本展は、歴史的に政治、経済、文化や信仰の中心地であった山紫水明の歴史都市、京都ゆかりの文化財のうち、精華ともいべき美術工芸品の国宝を中心に展覧し、京都が日本の文化財保護に果たしてきた重要な意義を御紹介しようとするものです。

また、我が国における文化財の偉大な護り手であり続けてきた皇室の至宝の数々や、貴重な品々の修理や復元模造、その用具材料の生産といった、現代の文化財保護に不可欠な各種の取り組みについても御紹介いたします。

本展は、政府が推進する「日本博」及び「紡ぐプロジェクト」の一環として開催するものです。



【展覧会概要（予定）】

1. 会場：京都国立博物館 平成知新館（京都市東山区茶屋町527）
2. 会期：令和3年7月24日（土）～9月12日（日）
3. 主催：文化庁、京都国立博物館、独立行政法人日本芸術文化振興会、読売新聞社
4. 特別協力：宮内庁（宮内庁三の丸尚蔵館）
5. 出品文化財：国宝66件、重要文化財3件（現時点。さらに追加される可能性あり）
宮内庁所蔵文化財5件、ほか模写模造、文化財修復用具・関連映像等
6. お問い合わせ：特別展「京の国宝—守り伝える日本のたから—」広報事務局

（担当：平野・鈴木・池袋）

電話：03-6820-8105 FAX：03-3499-0958 E-mail：miyako2021@ypcpr.com

7. 公式ホームページ：<https://tsumugu.yomiuri.co.jp/miyako2021/>

<担当>文化庁文化財第一課

課長 田村 真一（内線 2884）
主任文化財調査官 藤田 励夫（内線 2888）
総括係 中野 皓介（内線 2886）
電話：03-5253-4111（代表）
03-6734-2886（直通）

文化財を後世まで確かに守り伝えるためには、様々な課題があります。本章では京都を中心としつつ、さらに全国にも目を向け、文化財保護に欠かせない様々な取り組みについてご紹介します。



国宝 花下遊楽図屏風 狩野長信筆 桃山時代（17世紀）東京国立博物館（9月7日～9月12日展示）※展示は1週間のみ

昭和28年3月31日指定
近世初期風俗画の名品として名高いが、修理中であった大正12年9月1日、関東大震災で右隻の中央部分を失った。災害への備えや対応は、文化財保護にとって常に切実な課題である。

国宝 刀
金象嵌銘天正三十二年日江本阿弥磨上之（花押）／所持稲葉勘右衛門尉（名物稲葉江）鎌倉～南北朝時代（14世紀）山口・柏原美術館（前期展示）刀剣撮像＝中村 慧

昭和26年6月9日指定 戦後、最初の国宝指定を受けた名刀。いつしか行方不明となり捜索されていたが、2016年に所在が届けられ、再び世に姿を現した。品々の調査や把握、管理は文化財保護の最も大切な営みの一つである。

◇事前予約＜優先制＞のご案内◇

本展は、新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡大防止のため、事前予約＜優先制＞を導入します。予約不要の「当日券」を会場にて「若干数」をご用意しますが、「日時指定券」をお持ちの方優先でご入館いただきます。ぜひ、ご来館前に「日時指定券」をお買い求めください。混雑緩和のため、入館時間を区切り、その時間帯内にご入館いただきます。皆様のご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

※詳細は追って展覧会公式サイトほかでご案内いたします。

【公式サイト】
<https://tsumugu.yomiuri.co.jp/miyako2021/>

【観覧料（税込）】
一般1600円 大学生1200円 高校生700円

※日時指定券は6月1日（火）よりローソンチケットで発売予定です。

ご観覧前に以下をお読みいただき、新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡大防止のための取り組みにご協力ください。

京都国立博物館ウェブサイト「ご来館くださる皆様へのお願い」
<https://www.kyohaku.go.jp/jp/onegai/infection-prev.html>



【アクセス】JR・近鉄＝京都駅下車、駅前バスD1のりばから100号、D2のりばから206・208号系統にて博物館・三十三間堂前下車、徒歩すぐ。京阪電車＝七条駅下車、東へ徒歩7分。市バス＝博物館・三十三間堂下車、徒歩すぐ。または東山七条下車、徒歩3分。*ご来館はなるべく公共交通機関をご利用ください。駐車場は有料となっております。

京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM 東山七条
京都市東山区茶屋町527 TEL.075-525-2473(テレホンサービス)
<https://www.kyohaku.go.jp/>

特別展 京の国宝

守り伝える日本のたから

2021年
7月24日(土)～
9月12日(日)

日本博 紡ぐプロジェクト

NATIONAL TREASURES OF KYOTO
Preserving the Cultural Heritage of Japan's Ancient Capital
July 24–September 12, 2021



主催 | 文化庁、京都国立博物館、独立行政法人日本芸術文化振興会、読売新聞社

特別協賛 | Canon JR東日本 JT 三井不動産 三菱地所 meiji 協賛 | 清水建設 Takashimaya TAKENAKA SMBC 三菱商事

特別協力 | 宮内庁（宮内庁三の丸尚蔵館）

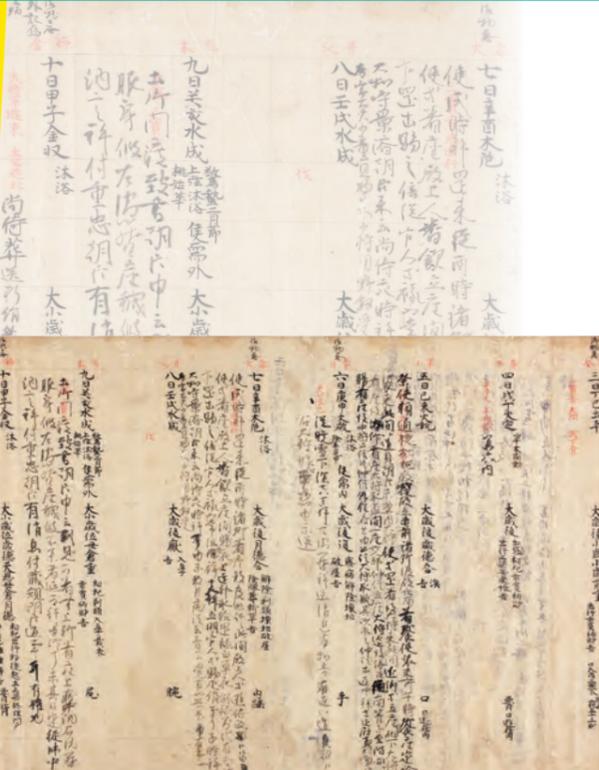


京都国立博物館 KYOTO NATIONAL MUSEUM 東山七条

【開館時間】午前9時～午後5時30分 *入館は午後5時まで
【休館日】月曜日*ただし8月9日(月)休は開館10日(火)休館

※会期等は今後の諸事情により変更する場合があります。

古の都、京都。現在、全国で一万件をゆうに超える国指定の美術工芸品のうち、およそ六分の一以上が、京都盆地とその周囲に広がる京都府下に伝えられています。本章では、京都と文化財の深い関わりを見つめながら、私たちの「国宝」が生まれ出るまでのあゆみを辿ります。



国宝 御堂関白記 自筆本 寛弘元年上巻(部分)
平安時代(10~11世紀) 京都・陽明文庫(通期展示<寛弘元年上巻:前期展示、寛弘八年上巻:後期展示>)

昭和26年6月9日指定 平安時代、栄華を極めた藤原道長の日記。我が国の歴史や文化を考える上でかけがえのない存在であり、美術工芸品として、戦後最初の国宝となったものの一つである。世界最古の自筆日記として、2013年にはユネスコ「世界の記憶」に選ばれている。

絵画

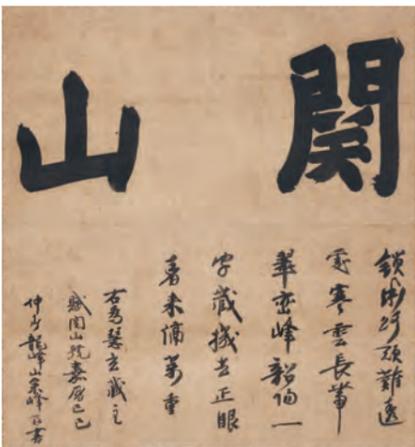
文化財保護法の制定から約七十年。いにしえより世に名高い名宝から、学術の進歩によって新たに見出されたものまで、今日までに国指定品となった美術工芸品は国宝八九七件、重要文化財一〇八〇八件(令和三年三月段階 ※重要文化財の数は国宝を含む)の多きに上ります。本章では特にその精華ともいふべき、京都の土地や人ゆかりの国宝の数々をご紹介します。



国宝 風神雷神図屏風(右隻 部分) 俵屋宗達筆
江戸時代(17世紀) 京都・建仁寺(8月24日~9月5日展示) ※展示は2週間のみ

昭和27年3月29日指定 俵屋宗達の描くこの屏風は琳派、ひいては日本美術のイメージを象徴する作品の一つとして国際的に名高い。京都にある近世絵画のうち、戦後最初に国宝指定を受けたものの一つ。

書跡・典籍・古文書



国宝 宗峰妙超墨蹟「関山」道号
鎌倉時代 嘉暦4年(1329) 京都・妙心寺(前期展示)

昭和27年3月29日指定 たっぷりと大きな文字に、禅僧の揺るがぬ力強い精神が宿る。日本最大の禪寺、妙心寺の根幹をなす書であり、我が国の禅宗文化を代表する至宝。

彫刻



国宝 二十八部衆立像のうち摩睺羅
鎌倉時代(13世紀) 京都・妙法院(通期展示)

昭和30年2月2日指定 国宝の三十三間堂に並ぶ二十八部衆の一体で、あふれる品格と躍動感が印象的である。長大な堂とともに、歴代の権力者たちに保護されながら時代の盛衰を見つめてきた。

いま 私たちが目に
することの出

来る古の品々は、多くの人々の手を経て、過去から現代へと伝えられてきました。我が国はそうした貴重な文化財のうち、特に歴史上、芸術上たぐいえない価値を持つものを国宝や重要文化財に指定し、国民共通の財産として保全を図っています。この制度の基礎である文化財保護法は、太平洋戦争後まもなく昭和二十五年(一九五〇)に制定され、今日に至る七十年あまりの間、学術の発展や社会の変化とともに歩みながら、少しずつ指定を拡充してきました。とりわけ古都、京都の文化財は早くから重視され、文化財保護の進展に重要な役割を果たしてきました。この日本を代表する歴史都市は、同時に我が国の誇る学問や芸術の一大拠点でもあり、令和四年度には文化庁の京都移転も控えています。

本展は、そのような京都ゆかりの名高い国宝、皇室の至宝の数々を中心にご覧いただけるながら、文化財のもつ不滅の魅力とその意義をご紹介します。あゆみや、日々の調査研究、防災、修理といった、文化財を守り伝える上で欠かせない様々な取り組みも取り上げます。本展を通じ、日本の歴史と美術工芸の粋をご堪能いただくとともに、私たちの社会にとってかけがえのない文化財を後世に伝える営みに想いを馳せていただければ幸いです。



皇室の至宝
春日権現験記絵 巻二(部分) 絵:高階兼筆 詞書:鷹司基忠ほか筆
鎌倉時代 延慶2年(1309)頃
東京・宮内庁三の丸尚蔵館(通期展示<巻二:前期展示、巻七:後期展示>)

鎌倉絵巻の至宝。藤原一門の氏神である奈良の春日社に奉納されたもので、京の公家文化の高みを鮮やかに示す。流出などの受難を経つても今日、20巻全てがそろって残る。

昭和40年5月29日指定 製作の年と場所が明らかな世界最古の琴として、アジアの音楽史に名高い逸品。法隆寺の伝来品で、皇室の所蔵を経て、現在は東京国立博物館に収められ国宝となっている。

国宝 七弦琴(法隆寺献納宝物)
中国・唐時代 開元12年(724)
東京国立博物館(後期展示)

工芸品



昭和30年6月22日指定
京の天皇家や将軍らがそろって奉納した、最高級の神宝の数々。南北朝時代の比類ない工芸品であり、化粧道具を入れた愛らしい手箱は、当時の雅な生活文化の香りも伝える。

国宝 古神宝類のうち籬菊蒔絵手箱
南北朝時代(14世紀) 和歌山・熊野速玉大社
(通期展示<写真の手箱は前期展示>)

考古資料・歴史資料

昭和28年3月31日指定 征夷大將軍、坂上田村麻呂の遺品とされる大刀。金装の輝きが今もまぶしい。平安時代初期の考古遺物。



国宝 山科西野山古墓出土品のうち金装大刀
奈良~平安時代(8~9世紀) 京都大学総合博物館(通期展示)

我が国の文化財保護において、行政とともに非常に大きな役割を果たしてきたのが、京都にゆかり深い皇室でした。明治維新に伴う混乱の中、危機に瀕した東大寺や法隆寺といった古社寺が、その最も重要な伝来品の数々を皇室に献納し、援助を受けながらその姿を今日まで保つたことはよく知られた出来事です。本章では、歴史と文化の守護者である皇室ゆかりの至宝を、特に厳選してご紹介します。